

### (3) 漁況海況予報事業

沖縄海域の海況の季節変動を把握し回遊性魚類であるカツオ、トビウオ類、トビイカ等の漁場形成、季節消長との関連を調査研究することを目的に本事業を実施した。

沖縄西方海域の沖合定線調査を年5回、図南丸216.09トンで実施した。また沖縄東方海域の沿岸定線調査をくろしお21.44トンで年11回実施した。調査内容は一般海洋観測、産卵調査である。

昭和51年黒潮の流量は平年より多く、夏季に琉球列島寄りの南下反流は強勢であった。黒潮流軸は沖縄の北西78～100裡にあり、大陸棚斜面から小幅の離接変動をくり返しながら北東～北々東へ流去した。水温の季節変化を平年値と比較すると、冬季～夏季は低目に、秋季は平年並に経過した。一方200m層水温は前年比、黒潮域で夏季に一番高目となったが、春、秋とも低目に、沖縄東方では前年比低目に経過した。表面塩分は前年比高カンで200m層はやや低カンに経過した。尚、海洋観測結果はそのつど水産庁その他関係機関に報告した。

近海カツオ竿釣の昭和51年漁況は本部・宮古とも低調であったが、回遊魚群量が例年より少なかったこと、カツオ餌料の発生量も少なかったことが要因である。トビウオ類の水揚げ量は前年をやや上回った。トビイカは漁期の開始が6月にみられ例年より早かったが、9月の盛漁期に低調もあって水揚げ量は前年を下回った。

海況との関連では、春～夏に低水温であったこと、夏型海況への移行が例年より遅れたことが回遊性魚類の不漁要因になったと思われる。

なお、海洋観測、産卵調査結果の詳細な報告は、昭和51年度漁況海況予報事業結果報告書として別刷で行う予定である。

#### 実施概要

沖合定線調査 定線名 久米島北西沖合定線

航次	調査年月日	船名	測点数	調査員	備考
1	S 51. 6. 16 ~ 6. 18	図南丸	12	川崎、吉川	補助点11点
2	S 51. 8. 3 ~ 8. 5	"	12	友利	—
3	S 51. 10. 14 ~ 10. 16	"	12	川崎	—
4	S 51. 12. 8 ~ 12. 10	"	12	川崎、金城	補助点11点
5	S 51. 2. 9 ~ 2. 12	"	12	吉川	—

沿岸定線調査 定線名 沖縄南部沿岸定線、金武湾沿岸定線

航次	調査年月日	船名	測点数	調査員	調査定線
1	S 51. 5. 7 ~ 5. 11	くろしお	10	吉川	沖縄南部
2	S 51. 6. 16 ~ 6. 18	"	18	友利	沖縄南部、金武湾
3	S 51. 7. 22	"	10	吉川	沖縄南部
4	S 51. 8. 17 ~ 8. 19	"	15	吉川	沖縄南部、金武湾
5	S 51. 9. 20 ~ 9. 21	"	8	久貝	金武湾
6	S 51. 10. 26 ~ 10. 27	"	10	喜屋武	沖縄南部
7	S 51. 12. 16 ~ 12. 17	"	18	喜屋武	沖縄南部、金武湾
8	S 52. 1. 17 ~ 1. 19	"	18	吉川	沖縄南部、金武湾
9	S 52. 3. 11 ~ 3. 12	"	10	吉川	沖縄南部